

30周年記念号に寄せて

学校法人 千葉敬愛学園

理事長 長戸路 政行

このたび敬愛大学研究論集におかれて敬愛大学創立30周年記念号を発刊されると伺い、心からお喜び申し上げます。

30年、この間に大学も、否、日本の社会全体の置かれている状況が大きく様変わりしました。生産増強，効率追求，過剰生産，過剰消費そしてついにバブル崩壊となりました。そればかりか子供の出生数が激減し，昭和20年（1945年）以後，最高年間260万人位もあったのが近年は120万人という極めて憂慮すべき数字となっております。それに伴い，大学入学志願者数の減少，大学への全員入学，大学の定員割れといった事態も予想されることになってきました。

これからの我が敬愛大学はどうあるべきか。大学大衆化が進むなかで敬愛大学の位置づけをどうみるのか。大学とは研究機関であると同時に教育機関とみるべきだとして，問題はその比率をどうみるべきか。敢えて数値を示すとするならば，研究機関を5，教育機関を5とみるのか，研究機関たる色彩を4，教育機関たる色彩を6とみるべきか。おそらく，後者の比率をとるべきではないのか。そうだとすると，本研究論集においても，今後はもっと教育方法についての専門的研究発表が増えて欲しいと思います。

さらに，大学大衆化の結果として大学（University）を卒業した後，職業的資格をとるための専修学校へ入り直す人が増えているそうです。なかには大学在学中に専修学校へも通っている人もあるようです。この事の善

し悪しは別として今の大学生の間にそのようなニーズが生じていることは事実のようです。大学卒だけでは社会の **status symbol** にならなくなったためでしょう。しかし、この傾向が行き過ぎると一体、大学とは何ぞやという根本的問題に行き当たってしまいます。情報技術（**Computer Engineering**）の教育が普及して来たこともあって大学教育が益々、技術取得の色彩を強めているようです。これは決して悪いことではありませんが行き過ぎてはいけないと思います。

敬愛大学では従来から全学生参加の小人数ゼミの制度をとっています。これは教授の人格に触れる大変貴重な教育方法になっています。本大学では今後ともこの方法を強化するとともに資格取得のコースも進めて行きたいと思っています。私はこれを **triple school** と仮称しています。世間では普通大学と資格取得専修学校との二ツに進むことを **double school** と俗称しています。これに英国風の **Cottage University**（寺子屋大学とも訳することにします）形式を加えたものを想定して **triple school** と勝手に命名したものです。英国では大学大衆化せず（一説では大衆化できなかったという人もいますが）、見方によれば旧態依然たる小人数教育が主流をなしているそうです。そして、今、その小人数教育制の効用を見直すべき時に回帰してきたようです。しかし、小人数教育制の成功は一重に教授の人格、学識、熱意にかかっていると思います。当然のことながら教育は教師によって100%左右されます。先生方のご尽力を祈るのみです。

（以上）